



ふるえがお



古江小 HP QR コード



令和8年2月20日

松江市立古江小学校学校だより（文責 校長：青山 巧）

授業参観、学級懇談お世話になりました

17日は今年度最後の授業公開日でした。たくさんの保護者の方に参観いただきありがとうございました。お子さんの1年間の成長の様子を感じていただけましたでしょうか？ 学校運営協議会の委員の方からは、落ち着いて授業に取り組む子どもたちの姿を褒めていただきました。小学校生活最後の公開授業だった6年生は、国語の学習として毛筆で書いた漢字一文字を示し、その文字のもつ意味とそれを選んだ理由を伝えていました。それぞれが思いを込めて発表していたように感じました。すぎのこ・たけのこ学級の子どもたちは、畑で収穫した野菜の販売のリハーサルを保護者相手に行い、本番に向けていろいろアドバイスをいただいたようでした。



全国いじめ問題子供サミットに参加しました！

1月24日に文部科学省で開催された全国いじめ問題子供サミットに4名の児童が島根県代表として、古江小学校の取組を発表し、全国から集まった小中学生と意見交換をしてきました。参加した児童は、学校生活やふだんの生活において貴重な体験や刺激となったようです。今後の活躍がとても楽しみです！



たくさんの人の前でプレゼンテーションをして、質問にも上手に答えることができました。

大雪による2日間の臨時休業

9日・10日と積雪や凍結による影響で2日間臨時休業の措置をとりました。予め天気予報で警報級の積雪が見込まれることもあり、学園内や市内小学校長先生方と連絡を取り合いながら、8日の早い段階で9日の臨時休業は決定することができました。10日については寒波が緩むこともわかっていたので、当初は通常通り登校と考えていましたが、午前中の段階でスクールバスが運行できないとの連絡と保護者からの登校路（歩道）が雪かきされていなくて歩くのが困難という連絡もいただいたので、引き続き臨時休業の措置をとりました。

9日の臨時休業について、毎朝立っていただいている交通指導員の方や民生委員・主任児童委員、寿会や地域の方などの見守りをいただいている方に学校から直接連絡することができず、ご迷惑をおかけし、大変申し訳ありませんでした。この機会に、休日における連絡体制について校内で見直しを図ります。

「ワンダふるテスト」を終えて【研究主任:高梨】

今年度から学力向上の新たな取組として、「ワンダふるテスト」を行いました。先日、今年度最後のテストが終了しましたので、この一年の子どもたちの成長の様子、そして成果と課題をご報告させていただきます。

□「自分で学ぶ力」を育むための「ワンダふるテスト」

このテストは、今まで学習した漢字や計算の定着を確認するだけでなく、「自分で目標を立て、目標を達成するために計画的に学習し、自分の力を伸ばしていく」ねらいがありました。テスト一週間前に範囲を提示し、それに向けて家庭学習に取り組むというサイクルを繰り返してきました。

ご家庭でも、子どもたちにアドバイスや、励ましの声をかけていただくといった温かなサポートをありがとうございました。子どもたちの前向きな姿勢は、間違いなく保護者の皆様の支えがあってこそのものでした。

□子どもたちの成長の様子

まず、テストに向けて家庭学習に取り組む時間が増えました。そして、子どもたちの「学びへの自己調整力」が芽生えたことも大きな成長の一つだと考えます。当初は、思うように点数が取れず、肩を落とす姿もありました。しかし、回を重ねるごとにテスト終了後の子どもたちの姿に変化がありました。

- ・「漢字は書いて覚えるより、読みを確認してからの方が覚えられるな」
- ・「自分は計算ミスが多いから、問題を解き終わったら、もう一度解いてマークをつけよう」
- ・「〇〇さんがいい勉強の方法を教えてくれてわかるようになったよ」

このように、失敗を次の成功へのステップに変え、自分に合った学び方を模索する姿が多く見られるようになりました。休み時間に、友達と「どうやって勉強してる?」と相談し合ったり、教え合ったりする姿は、まさに自分たちの学びを自分たちで高めようとする「自己調整力」の現れであり、その様子に深く感心しました。

□ 成果と課題

具体的な成果として、県学力調査※1の「達成率(目標点を超えた児童の割合)」において、現6年生は昨年度(5年時)の74.3%から80.5%へと、6.2ポイント向上しました(算数)。基礎・基本の徹底が、着実に力となっている証拠です。一方で、真摯に受け止めるべき課題も見つかりました。本校で行っている児童アンケートの「勉強がよくわかる」という肯定的な回答が、12月には7月に比べ7ポイント低下(84%→77%)しています。習った直後は分かっていたことでも、時間が経つと分からなくなることをワンダふるテストを通して認識したことで、下がったのではないかとの意見もありましたが、この結果を重く受け止め、「分かったつもり」で終わらせないよう日々の授業改善に取り組んでおります。

※1 R6年度の結果は県学力調査。R7年度の結果は松江市学力調査(R7年度は、県学力調査は実施していない。学力の推移がわかるように今年度から松江市では、R6年度まで採用していた業者の学力調査を行っている。

□教員の振り返りより(一部)

成果	課題
・学習習慣の定着(学習に向かう意欲付け) ・基礎学力をつけようという意識がついた ・継続して取り組む良さを実感している	・子どもが学習した成果が出るテストにすること ・取り組みに個人差がある ・意欲的に取り組むことができない子どもがいる

合格点という一律のハードルは、基礎学力定着のために大切にしながらも、どの子も「昨日の自分より成長した!」と感じられるような仕組みを現在、教職員一丸となって検討しています。

□おわりに

「ワンダふるテスト」は来年度も継続し、内容をブラッシュアップし、子どもたちが「やればできる!」という自信を深められるよう、努めてまいります。お気付きの点や、改善へのご意見などがございましたら、連絡帳等で担任までお寄せください。一年間、子どもたちの頑張りを共に支えてくださり、本当にありがとうございました。